

## 第18回

# 出土文化財展

日時：令和4年 6月8日（水）～ 6月19日（日）

場所：掛川市立中央図書館 1階生涯学習ホール

令和3年度に実施した確認調査事業

### —寺ノ段遺跡（寺ノ段古墳）—

1 位 置 掛川市原里

2 調査期間 令和3年7月

3 調査面積 140 m<sup>2</sup>

4 内 容

寺ノ段遺跡は、縄文時代晚期（約3,000～2,000年前）の遺跡として知られています。遺跡地内で農地の造成が計画されたため、遺跡の残存状況を確認する目的で確認調査を行いました。

調査では、縄文時代と弥生時代の竪穴住居跡がそれぞれ1軒と、古墳時代末期（約1,400年前）の円墳が新たに発見されました。

円墳は、遺体が納められた場所である横穴式石室と円墳を取り巻く溝（周溝）が確認されました。円墳の規模は、周溝の内側部分で直径14.5mを測ります。横穴式石室の内部には、遺体と共に埋葬された副葬品として、土師器の皿、須恵器の壺と長頸瓶が出土しています。



副葬された土師器・須恵器



円墳の横穴式石室

# — 史跡横須賀城跡 三の丸 —

- 1 位 置 掛川市山崎
- 2 調査期間 令和3年11月～令和4年1月
- 3 調査面積 600 m<sup>2</sup>
- 4 内 容

横須賀城は、武田方から高天神城を奪還する拠点として、天正8年(1580)、徳川家康の命を受けた大須賀康高によって築かれた城です。天正9年(1581)に高天神城が落城した後は、明治維新に至るまで、遠江東南部を支配する拠点としての機能を果たしました。

横須賀城跡は、昭和56年に国の史跡に指定され、これまで本丸、櫓門、三日月池、西の丸、北の丸、松尾山の整備が完了しています。令和3年度は、城の最も東側に位置する三の丸の整備に必要な資料を集めため、確認調査を実施しました。

調査を行ったのは、東外堀と牛池と呼ばれた池に当たる場所です。

東外堀の調査では、堀を護岸する石垣が見つかりました。石垣の石は、丸みを帯びており、大きさは10cm～30cm程度です。この石垣は、地盤の安定と土砂の流出を防ぐために堀の下部に積まれた「腰巻石垣」と呼ばれるものと考えられます。

また石垣の前面に、積まれていた石や裏側に詰められていた裏込め石などが堆積していることから、廃城の際に石垣を外堀側に崩す行為が行われたと想定されます。

東外堀からは、堀に葺かれた瓦、櫓などの建物に葺かれた軒瓦・鬼瓦などが出土しました。廃城の際に、使わなくなった瓦を外堀に捨てた可能性も考えられるでしょう。

牛池の調査では、池の東、西、北側で池底が確認されました。池底は深いところで約2.4m、池の東西の幅は約30mであったことが分かりました。土の堆積状況から、江戸時代のどこかで池を小さくするために埋め戻して



横須賀城遠景



東外堀の石垣



崩された石垣の状況

いること、池底に堆積した土砂を取り除くなどの日ごろの管理は行われていなかったことが明らかとなりました。

牛池からは、土器・陶磁器のほかに多くの瓦が見つかっており、中には江戸時代の元号である「延享二」(1745)と推測される平瓦が出土しています。出土状況から、横須賀城の本丸や北の丸周辺に存在した堀や建物に葺かれた瓦が牛池側に転落し堆積したと考えられます。

令和3年度に実施した確認調査によって、東外堀と牛池の位置と規模について大まかな想定ができるようになりました。今回の調査結果などを基にして、今後の整備について検討を進めていく予定です。



遠州横須賀城図(江戸時代)



東外堀から出土した瓦



牛池の状況(北側)



牛池の状況(東側)



牛池から出土した瓦



調査風景

# —史跡和田岡古墳群 吉岡大塚古墳—

1 位 置 掛川市高田

2 工事期間 令和3年9月～令和4年2月（整備工事開始 平成29年8月～）

埴輪製作 令和3年12月 野焼き 令和4年2月

## 3 内 容

古墳時代中期（約1,600年～1,500年前）に造られた和田岡古墳群は、原野谷川が形成した段丘に点在しています。4基の前後円墳と1基の円墳に埋葬された人々は、原野谷川中流域を治めた有力者達と推定されます。貴重な古墳群として、平成8年3月に国の史跡に指定されました。

吉岡大塚古墳は平成19年度から平成26年度まで史跡整備に向けた発掘調査を行い、全長54.6m、後円部直径41.3m、高さ7mで、墳丘には葺石が施され、円筒埴輪、朝顔形埴輪、壺形埴輪が並べられていたことがわかりました。この結果に基づき、29年度から整備工事に着手しています。

令和3年度は、トイレ・休憩施設の建設と応募してくださった市民の皆様に墳丘に設置する円筒埴輪を製作していただきました。吉岡大塚古墳から出土した埴輪は、仕上げにハケが使われていないことや、形状が樽型になっていることが特徴です。地域性の強い埴輪が作られていたことがわかります。今回、市民の皆様にも同様の形状、風合いになるように製作していただきました。



埴輪製作の様子



埴輪野焼きの様子



完 成